

十二月一日(土)、本校体育館にて「追い出せ差別 守ろう人権」をテーマとして人権集会が開かれました。

栗林小学校のみんなが思い合う心でいっぱいになるような人権集会をして、相手のことを思いやるあたたかい心をもとうという願いを込めたテーマです。

八時四十分から九時二十五分までは一・二・三年生の部、九時三十分から十時二十分までは四・五・六年生の部としてそれぞれの学年の発表がありました。

# 人権集会

「友だちといっしょ」の曲にのって入場する子どもたちの顔は輝いていました。この曲は本校の卒業生が作詩・作曲したもので、大先輩の思いを受け継いだ集会になりました。毎朝の歌声「あいさつ」とともに、今も先輩の作った歌が栗林小学校の子どもたちによって歌い継がれていることに感動しました。

各学年とも歌や劇、合奏などを通して人権や仲間について考え、発信しました。

見かけで仲間はずれにしないということを劇で発表した一年生に始まり、社会科で学習した水平社を取り上げ、生まれたことへの誇りをもとうと呼びかけた六年生まで約十分の中に凝縮された内容は、各学年の練習の成果が表れ、会場の子どもの心をも動かしたようです。

発表の後の「他の学年から学んだこと」では、自分から声をかけて仲間を増やしたい。

「いいことをすれば自信がつく。これからいいことをしたい。昔から差別がある。今もある差別をなくしたい。などが積極的に出されました。最後に校長先生が、

「あたたかいことばは、すてきな歌りもの」という話をして集会を終えました。

一年「ようこそ どうぶつむらへ」

二年「たすけあおう みんななかよし」

三年「ドッジボール」

四年「考えようなかまづくり」

五年「ぼくたちわたしたちのできること」

六年「守り抜く人権輝く未来」

友だちといっしょに

作詞 企画委員会  
作曲 松本裕希  
中尾はるか

(昭和37年度卒業生)  
編曲 杉原俊雄  
(平成元年年度卒業生)

一、少こう みんな いっしょに  
あそぼう みんな いっしょに  
みんないっしょ 友だちさ  
いじわるなんか やめよう  
ちいさな いのちを大切に  
つなごうよ 心と心の  
にじのはし

二、退もう みんな いっしょに  
まなぼう みんな いっしょに  
みんないっしょ 友だちさ  
なかまはずれは やめよう  
ちいさな いのちを大切に  
かけようよ 心と心の  
ゆめのはし



十二月十九日(水)に、児童集會が行われました。今回は六年生が「第九」や和太鼓・獅子舞を披露しました。

「第九」は、ベートーベンの曲で、交響曲としては最後の九番目に作られた曲です。この曲を、六年生は相談のうえ、ドイツ語で歌おうと決めました。

一ヶ月前から、発音テープを聞きながら毎日練習してきました。来年がよい年であるように、世界が平和になるようにと六年生全員の願いを込めて歌いました。

プロイデエ シューネルゲツテル・・・ヨルカ  
すばらしい歌声が、体育館いっぱいに響きわたりました。



また、栗つ子学習で学んできた「栗林の文化」の中で、今もずっと受け継がれている「藤塚の獅子舞」・「室町の獅子舞」を披露しました。もちろん獅子頭からゆたんの布まで自分たちで作ったものです。

和太鼓チームは、「こんな栗つ子になりたい」という願いをこめてオリジナルの栗つ子太鼓「はげしい栗つ子」と「かっこいい栗つ子」を発表しました。全校生は、六年生のすばらしい発表にいつまでも酔いしれていました。

△7年も元気に  
もちつきだ

ベツタン ベツタン早朝より、もちつきの懐かしい音が聞こえました。

十二月十六日(日)に、栗林校区福祉もちつきが、今年も小学校で行われました。当日は、天気にも恵まれ、一白つくたびに汗がでるほどでした。

今年も、子ども会から百人以上の子どもたちが参加し、大人に負けじと腕ふるいました。

どの子も、きねをもつのは初めてのようでした。白の中のおもちをめぐってきねをふりおろしていました。

また、ついたもちを上手にまろめ、あんを入れていました。ついた後は、子どもたちは大きな口をいっしょにあけて、できたもちをほおばっていました。

このついたおもちらは、栗林地区の一人暮らしのお年寄りに配られました。



冬の祭り  
点灯式

十二月二十一日(金)に、第十五回高松冬の祭りイルミネーション点灯式に、五年生六名が参加しました。参加した六名は、看護婦さんになって病気やけがをして人を助けたい、みどりいっしょに地球にしたい等自分の夢や願いを明かりに願って点灯しました。